

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



南門(黒門)から神殿を望む

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
- ・おちばへの伏せ込みひのきしん

立教171年
1月号

立教百七十一年

明けましておめでとうございませう

昨年は次の塚・教祖百三

いと思ひます。

十年祭に向け、歩み出しの年として新たな成人の歩みを進めてまいりましたところ、笠岡に繋がる皆様方が心を一つに揃えて、目標に向けしつかりとした歩み出しをして下さった事に心より御礼申し上げます

本年も「おつとめ奉仕者増員」を目標に一步一步確かな歩みを進めてまいりた

その為にはおぢばで開催

される後継者講習会や三日講習会等に一人でも多くの

道の後継者を送り出すと共に、

その後の丹精を教会でしつかりとして行かなければ

なりません。加えておぢ

ばでお育て頂いた御礼も込めて、本年はおぢばへの伏

せ込みひのきしんもさせて頂きたいと思ひます。その

集大成として、この秋の大祭には別席ひのきしん団参をさせて頂きますのでお心寄せをお願い致します。

そして御恩報じを實現する目標としての一年毎に仕切つての心定めも完遂を目指してにいがけ・おたすけにと邁進致しましょう。

何卒今年も一手一つの心で、歩みは遅くても確かな成人の歩みを進めて下さいますようお願い申し上げます。新年の挨拶とさせて頂きます。

笠岡大教会長

上原理一



去る11月24日に修了者のつどいを開催しました。これは、今年8月から始まった第1次から11月18日の第11次を受講した人を対象に開かれたものです。これはおぢばで受けた感銘を今後、それぞれの立場から地域社会や家庭で生かし、これからお道を歩んでいく上での心の指針を探すつどいということで次のプログラムを立て修了者に参加を案内しました。

- ・ウォーミングアップ(心と体を柔らかく)30分

- ・班別ふりかえり(講習会受講の動機・参加後の感想・今後の決意等)90分

- ・大教会長さまごあいさつ(若い人のお道の通り方・つとめとさづけについて)
- ・おつとめ
- ・会食・心のきしん

当日の参加者は、三連休の中日ということもあって男子12名、女子8名計20名でしたがみなさん終始熱心

後継者講習会 修了者のつどい 開催



に受講されました。特に班別ふりかえりでは出されたテーマについてそれぞれに抱える悩みをソフトに語り合うなど、目を輝かせながら聞いた。時にはユーモアを交えた意見に

大笑いをしたりなどなごやかな様子でした。また、大教会長さまの若者に対する熱い思いをしっかりと聞かせて頂き、よりをやの思いを身近に感じさせて頂いたことでしょう。お

つとめの後、さわやかな風がふく日和のお蔭で外での会食ができました。来年は、第13次から第30次までの修了者と今回参加できなかった人を対象に6月に修了者のつどいを開催する予定です。

後継者講習会に参加した感想

①「後継者講習会」に参加して感じたことを書いて下さい

- ・「ようぼく」として何をすべきかを考えながら日々をとらせて頂かなければならないと思った
- ・講習内容やプログラムと組、班割など年齢的な物も全体的に良かったです
- ・思ったより堅苦しくなく、ねりあいがとても盛りあがって楽しかったです
- ・若い人達の意見がしっかりしていてすごいと感じました
- ・道の後継者がこれだけいる人数のすごさに感動しました
- ・子育てを通じて、共通点を持つ方々とお話が出来、後に伝えてい

- ・ 大切に痛感しました。今の世代のみなさんのがんばっている姿に感動し自分もがんばってみようと思う気持ちにさせていただきました。
- ・ 全く知らない人とねりあいをしていく中で、いろいろな意見を聞くことができ、他人の考えを聞く中で、自分自身をみつめなおすことができ、勉強になりました。
- ・ 天理教を人様に伝えることが出来るように自分自身ももっと理解したいと思う
- ・ にをいがけをした人たちが喜んで同じようににをいがけをしていく仲間として成人していけるような教会をつくりたい
- ・ 日々「生かされている」喜びをあらためて感じさせて頂けた
- ・ 親神様、教祖のお働らき
- ・ 前回は、はっきりいって全くつまらない講習会でしたが、今回は、楽しくまた自らの信仰心をつめなをすいい機会だったと思いました
- ・ 真柱様のお話を直接聞かせてもら



- ② 「修了者のつどい」に参加して感
 - ・ えて有難かったです
 - ・ 失いかけた自身の心を取り戻せた事と、どれだけ幸せに生きているかを感じました
 - ・ 教祖は御存命だと言うことの確信、若い人は純粋に親神様を信じて素直に通っていて勉強になりました

- ・ じたことを書いて下さい
- ・ お道の教えを自分の為(成人していくため)に前向きに通っておられる方々のお話を聞かせてもらい、にごっていた私の心の埃を少し払ってもらえた感じがしました
- ・ 低い心で感謝の心で改めて考えさせてもらえた
- ・ いい時間でした
- ・ 大教会長様のあたたかい心づかいがありがたく思えました
- ・ つい一ヶ月程前の事ですすが改めてその時の講話やねり合いの事を思い出しました
- ・ また新しい出会いに感謝でき、また会える事を期待します
- ・ 先生や会長様、ありがとうございます。
- ・ 親があつての今だつくづく感じています
- ・ 大教会長様の話、思いが伝わって来ました
- ・ 大教会でのこうした行事に又、参加させて頂きたいと思えます
- ・ 本部の講習会のねりあいみたいで、思い出しました

- ③ 何でも要望があれば書いて下さい
 - ・ 話はずんでよかったと思います
 - ・ 講習会に参加して感じた事を忘れず次の塚に向かって進まなければいけないと思えました
 - ・ もう少し明確な目的があってもよいのではと思います
 - ・ 「後継者講習会」まだ数ヶ月しか経過していないのに日々の生活の中で感謝の気持ちを忘れてしまっていたように思います。今日、又、あらためて感じさせて頂くことが出来ました
 - ・ 教会の家内だからとか型にはまらず同じ年代の同じ信仰者の話をたくさん聞かしてもらって自分の信仰を見つめる機会が又、あれば良いなあと思います
 - ・ 海外で布教している人の所へ視察研修に行きたいです
 - ・ 文化の違いの差が大きい中で信仰を広めるのはすばらしいと思うし言葉の壁を心で越えられるのはなげかという理由でぜひ行ってみたいです

・新しく初めて天理教に参加して
る人々がこれからどんどんふえて
いきながらその方々と共に成人し
ていける教会をつくれたらいいな
あとと思っています

「後継者講習会修了者の集い」に

参加した感想

①参加した動機？

・会長様の声で
・十年前の参加と共に今回も参加さ
せてもらおうと
・仕事が変わったので新たな気持ち
で
・仕事の悩みから
・天理時報、上級教会長
・立場的に参加したいと思った
・人生の方向性を決めたい

②参加前の気持ちは？ また参加後
の気持ちは？

・しっかり信仰をつないでいこうと
いう気持ちが強くなった
・参加後は色んな出会いの中で自分
の未熟さを痛感した
・同じ立場の方々が多く楽しかった

・参加前は、10年前にも行った事が
あったので、内容が同じかなと思
いました

・班の人たちの心合わせる心とか
・不安がちな思いが、逆子で、安産
の後守護を頂き、自分をきれいに
したくて

・色々な人がいて、今の自分が幸せ
と感じて

・行く前にはイヤでした。特にねり
合いが…でもねり合いが好きにな
るくらい良かった、班での皆さん
が良くして頂けたので
・参加後は心新たにとえりを正して
いたのですが…

③印象に残った講義や出来事ありま
したか？

・ブラジル
・おさづけの大切さ
・商売や色々な理念をかえた
・日本はうしろから参拝、朝夕の参
拝、夫婦間のビデオ
・宿舍での生活も良かったので、笠
岡の人と交流もできた
・最後の講義が良かった、教祖の前

でお願いする時、用木としてお使
い下さい

・ウォーミングアップ度肝を抜かれ
てちょっと引いた。でも硬くなら
ずに参加できる事になったのであ
りがたかった

・教祖のお出ましがよかった

・三日目のビデオ

・食事・風呂

・班長をさせてもらったこと

④この講習会を通して天理教につい
て何か新たな発見があったり、疑
問が生じたりしましたか？

・色々な人たちの立場とか話が聞け
てよかった
・若い人たちのしっかりした考えが
すごかった
・すべてが発見
・天理教の規模の大きさ
・なぜ生きているか、行かされてい
るか無用の用、他の人の悩みが聞
けた
・若い人ほどあつい。他宗教をみつ
める人が多い
・自分なり



⑤この講習会の期間中、何か困った
ことはありましたか？ また問題
点は？

・荷物、待ち合わせ、笠岡の対応、
集合、天候
・託児を一度、親元に帰って来た子
をまたあずけるのはとてもつま
りなかった
・お風呂が大変
・食事のタイミング
・班行動

⑥講習会后、何か進んでするようになったことありますか？(信仰的実践)

- ・にをいがけ、おたすけにもっと出させて頂かなくてはという気持ちが強くなり、今後すぐにおたすけに出れるようになった。
- ・気持ちは高くなったけど、何もしてない、ひのきしん
- ・祖霊様を大切に
- ・進んで子供の世話をするよう心がける様になった
- ・教会への参拝・教会行事の参加
- ・おぢばの方へむいて朝晩のお礼をする様になった
- ・おつとめを大事にする様に
- ・人々に対する接し方
- ・気持ちの切り替え
- ・一から始める気持ち

⑦大教会で「道の後継者」を対象とする行事を開催するとすれば、どんな内容を希望しますか？また日帰り・一泊のどちらがいいですか？

- ・日帰り

- ・あまり見られない方との交流
- ・大教会長様との交流の声
- ・笠岡につながる後継者の集い
- ・できればウォーミングアップは(男の人と手をにぎるとか)目的をもう少し明確にして欲しい
- ・貴重な時間を使って参加しているので、目的あり、中身のあるものであって欲しい

⑧「三日講習会」を知っていますか？もし参加した人があれば両者を比較してどう思いますか？

- ・求道心がちがう
- ・先生が熱心

⑨今後の決意は？

- ・心の持ち方
- ・自分の目指すべき処の努力をした
- ・間に合う人になりたい
- ・おたすけ
- ・にをいがけ
- ・ひのきしんに頑張りたい
- ・道につながる仲間をたくさんつくっていききたい



神様にお引き

寄せただいて

雲東分教会 北野幸子

私は今回、後継者講習会の17次に参加させていただきました。

10年に一度だと聞き、とても有難く思いました。

深谷善太郎先生の講義で「神様を見る、ご守護に気付くことが大事」というお言葉が印象に残っており、それはどういう意味かをわかりやす

く説明してくださいって、天理教を知ってまだ日が浅い私でも理解することができました。

ねりあいでは同じ班の方の経験したお話や講義やビデオを見て感じたことを話し合いました。ねりあいでは何を話し合うのか心配で緊張していた私でしたが、良い方々ですぐに緊張がほぐれ、言葉の意味がわからな

いところを質問しても丁寧に教えていただき、安心して話し合うことができました。

ビデオでは「神様に引き寄せてもらった」とおっしゃっていた方を見て、私も神様に引き寄せてもらったんだ、神様が私を選んで下さったんだと思います、涙が出てきました。

講習会の最後に、障子が閉められている教祖殿で真柱様よりお言葉を頂き、これも特別なんだと思います驚きました。

後継者講習会を受講して、本当に良かったと思います。

今回考え、また教えていただいたことを心におさめ、毎日を送らせていただきたいと思います。

修養科終了生の声



修養科を修了して

陶山分教会 上原 繁 次

私は、この度、修養科のクラスで組別の役をいただき、様々なお世話どりをさせていただきましただ。ひのきしん・授業・別席・各行事の連絡など、年齢も育った環境も異なる方々と、話をし、心を通わせ、日々の修養生活を送ることは、私にとっで嬉しく、充実したものとなりました。中でも、とても嬉しく感じたのは、おさづけの理拝戴の時でした。今回、新たにようぼくとして門出を迎えたのは、およそ100人。入信間もない方や、神様にたすけていただきたい、また人をたすけたいという思いから、別席を運ばれた方など、様々な方々が、ようぼくとなりました。

拝戴日は、朝からお世話どりをさせていただいたのですが、教祖殿の御用場に拝戴された方々が、並ばれた時は、自分のことのように嬉しく、すがすがしく、勇んだ気持ちになりました。

はたして、自分がおさづけの理を拝戴したとき

は、どうだったかと言いますと、恥ずかしながら、その感激などは覚えていません。11年前におさづけの理を拝戴し、それからの自分のようぼくとしての歩みを振り返った時、その役割を果たしていなかったと思います。

ちょうど修養科中にあたる、秋季大祭の神殿講話において、真柱様は、『おたすけに親神様のお働きを頂戴するには、親神様、教祖にしっかりとつながり、その思召をたずねて、お受け取りいただける真実の理づくりをしなければならぬ。それには、日ごろから教会につながり、教えに親しんで思召に沿う思案ができるようになることが不可欠である。』とお聞かせくださいました。

おちばの理をいただいている教会に、足を運び、心を尽くすことが、をやに喜んでいただき、働いていただけることではないかと、私なりに、悟らせてもらいました。

しかし、私の癖、性分かもしれませんが、せっかくお道の教えを聞かせていただいても、なかなか実行できない。ようぼくとしての心定めを、いつも持っているかと言われたら、そうではありません。そんな私が、この度、修養科で学ばせていただき、改めて、日々の指針としなければならぬと感じたのは、「ようぼくの三信条」です。神一条の精神、ひのきしんの態度、一手一つの和。この三つをしっかりと心に治め、日々を通ること

も、親神様からご覧になれば、使いやすいようばくの姿ではないかと思えます。また、三信条を実践させていただくことは、お働きを頂戴するための理づくりでもあり、教祖のひながたに近づく方法の一つではないかと思えます。

ですから、この三信条を日々実践していく事が、修養科で学ばせていただいた事の一つでもあり、今後の私の目標でもあります。

談話室



少年鑑別所での研修会報告

明石市分教会長 杉原 博之

昨年11月27日、私は明石市の青少年補導委員39名の一員として貸し切りバスで大阪の少年鑑別所へ研修に向かいました。少年鑑別所とは、頂いた案内書によれば「主として家庭裁判所から観護措置の決定によって送致された少年を收容するとともに、その心身の状態を科学的方法で調査・診断し、非行の原因を解明して処遇方針を立てるための法務省所管の施設です。」とあります。各都道

府県庁所在地などに全国に52カ所に設置されているとのこと。また観護措置による収容の期間は原則として2週間以内ですが家庭裁判所の決定によって期間が更新(延長)されることがあり最高8週間とのことです。他に非行、いじめ、家庭内暴力、引きこもり、不登校、しつけなどの相談や、学校の先生、関係者からの相談に応じているとのこと。

鑑別所に着き各施設を見学、続いて鑑別所所長のお話しを聞かせて頂きました。左記紹介いたします。



鑑別所は例えば少年の人間ドックのようなもので13才から19才を対象としている。一番関わってくる年齢は男は15才、女は14才がピーク。

観護の結果、今までは保護観察が60%、試験観察が10%、少年院送致が25%位の結果となっている。

部屋は個室、4畳半位、トイレ、テレビ、机が設置されており、今まで外にぶつけていた自分の問題を見つめ直すための個室である。

食事は毎日弁当。久しぶりに3食食べたという子が多い。親も作っていない例あり。

布団、パジャマ畳んだのがはじめての子多し。

非行の背景

見かけとは違う心の中、心の底に悩み、寂しさ、虐待に蓋をしている。大人がじっと聞いてくれる経験が嬉しい。

家庭が壊れている場合が多い

両親が離婚している家庭が8割となっている。特に別れるまでにゴタゴタして乱れている状態の家庭。父親にひきとられると父親が朝から飲酒、母親の場合は夜の仕事となることが多く見られ子供は寂しい、我慢する、辛抱すること多し。この気持ちに蓋をしている。それが思春期になって(男15才、女14才)はじける。親から離れ仲間に向かう。同情、寂しさを強がることで対応している。

親が昔非行をしていた

今、自分の子供を育てるのに家庭でゆるすぎる。タバコ、飲酒、バイクくらいいいじゃないかと思っている。何かあるとすぐぶん殴る。学校で問題を起こすと学校に苦情を持ち込む。自分もそうやって育て今、立派にやっているという。鑑別所に対しても苦情を言う。

友達親子で甘えを許す

子供を中心として育てた家庭。子供はカードで多額の買い物をする。自分の欲望を抑えられない。

スポーツ等で挫折した子供

野球、サッカー等でケガをする。推薦されない。次の道に進むエネルギーがわいてこない。期待していた親から見捨てられた感じを持つ。10代の挫折は大きく不登校、引きこもり、心身症等に現れてくる。

例外的に

両親揃い、医者等の家庭で有名大学を卒業し、また兄弟も勉学に優れている家庭。その中に親の期待やプレッシャーに応えられない。子供は息切れて陰に隠れて万引き、痴漢、付け火等、親の目の届かないところでうつぶんをはらす。

発達障害の場合

その非行の背景、理由が分からない時、首をかしげるような行動。例えば学校へ行きたくないのに家に火を付ける等理解出来ない行動を取る。発達障害を考慮する必要有り。



私は現場の担当者の淡々と話される中に事実正鵠を得ていることを心から感じさせて頂きました。

立教百七十年十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護と成人へのお導きを頂いて 日々は結構に恙なく喜び一杯にお連れ通り頂きつつ月日を重ねる内に いっしか立教百七十年もあと十日を残すのみとなりました 思い返せば 本年は次の塚教祖百三十年祭に向けての歩み出しの年としての思いを一つにし「全教会でのおつとめ奉仕者の増員」を目標に掲げ 年毎の心定めと共に 理作りとして喜び感謝の心を基に 日々に真実を尽くす事を定め たすけ一条の御用と併せ実践してまいりました もちろん始めたばかりですので親神様教祖にお受け取り頂くだけの理作りには至っておりませんが 人々のエゴによって地球の温暖化がより進み 合わせて心の荒廃も進んでいる世上にあって道に繋がるお互いが 今日まで迷わずに歩み続ける事が出来ました事は誠に有難く心より御礼申し上げます 只今からおつとめ奉仕者一同喜び心一つに睦み合って明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて 本年納めの月次祭を執り行なわせて頂きます 御前には年の瀬の慌ただしさや寒さ厳しい中も厭いません 今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し言改めて一年間の御礼を申し上げます 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本年残された日々 心定め完遂の思い絶やさずつとめさせて頂くと共に 今年一年を振り返り反省すべき点はしっかりと反省し 来年の成人の歩みに繋げていく所存でございます 又年改まれば心も改め おちばへの伏せ込みを来たる年の活動に加え 親々達が積んでくれた徳の上に更なる徳の上積みが出るよう しっかりと目標を見据えて真実の種まきをしていく覚悟でございます

何卒親神様には情報や環境等 全ての流れが速く流れやすい世相にあって 親神様の御守護をしっかりと感じ決して世相に流される事なく 成人の道を歩む皆の誠真実の心をお受け取り下さいます万たすけの上に自由の御守護を賜り 喜びと希望に満ち溢れた年末年始を迎えさせて頂きますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

第803期修養科募集要項

*修養科期間

立教171年3月1日～5月27日

*教 養 掛

3ヶ月間	上 原 浩	(大教会役員)
1ヶ月目	吉 岡 輝 昭	(安 那 分教会長)
2ヶ月目	小 坂 静 宏	(神 邊 分教会長)
3ヶ月目	本 多 一 男	(西 伯 分教会長)

*募集要項

- ・ 志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日の昼食後に解散。

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦 人 会	青 年 会	少 年 会	学 生 会 学生担当委員会	雅 楽 部
1					
2	22 委員研修会			21 学生層育成者講習会	2・3 雅楽勉強会 (初心者・初級者)
3				28 春の学生おぢばがえり 後夜祭(直属アワー)	
4	19 婦人会本部第90回総会		30~1 鼓笛バンド講習会 1 おつとめまなび総会		
5	22 全委員部長講習会			25 おぢば管内の学生の集い	
6		29 ひのきしん団参	21 (縦の伝道講習会) 育成講習会		
7					
8			22~24 野外研修会(キャンプ)	24~26 富士山登山(下見)	
9		7~14 全分会布教推進週間			
10	19 ひまわり会女子青年 合同大会	1~24 一ヶ月ひのきしん隊 27 本部青年会総会			
11	22 委員部長後継者講習会	30 青年会創立90周年 天理青年一歩一歩の集い (会場:笠岡大教会)			2・3 雅楽講習会 (雅楽会会員)
12				輸 送 部	
備 考	◎支部例会(毎月3日午前10時) ◎直轄委員部長連絡会 (毎月次祭後) ◎女子青年例会日 (毎月第4日曜日) ◎ひまわり会 (毎月1日、4月のみ5日) ◎女子青年神饌物洗ひのきしん (毎月19日)	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~	◎教会おとまり会の実施	1月25~27 春季大祭参拝 4月17~19 教祖ご誕生祭参拝 7月26~4 こどもおぢばがえり 10月25~27 秋季大祭参拝	◎練習: 毎月次祭前日 夕勤後 ◎舞楽練習: 随 時

立教 1 7 1 年(平成20年/2008年)

部会 月	全体行事	ひのきしん	布 教 部	海 外 部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	21 献血ひのきしん 25~27 春季大祭詰所受入		
2	2~15 部内巡教	16~29 本部食堂(直1ブロック)	26・27 教会長講習会 28・29 修養科修了講習会	
3	2~15 部内巡教			
4		17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(直2ブロック)	28・29 修養科修了講習会	
6	1 後継者講習会修了者の集い 22 大教会長杯 親善大ソフトボール大会		21・22 布教所長夫妻研修会	中旬 英語講習会 事前研修会
7		16~31 本部食堂(福山ブロック) こどもおぢばがえり		
8	26~4 こどもおぢばがえり	25~4 詰所受入 6~20 直属ひのきしん特別隊	28・29 修養科修了講習会	7・8 英語講習会
9		境内掛交替	1~30 布教推進強調月間 28~30 全教一斉にをいげデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝 25・26 別席ひのきしん団参	1~15 本部食堂(高屋ブロック) 25~27 秋季大祭詰所受入		
11			28・29 修養科修了講習会	
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	1~20 直属ひのきしん特別隊 27 詰所餅搗		
備考	◎常話会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎連絡会議 毎月29日 午後 2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00	註：ブロックの区分けは 直1：鶴山～明石市 直2：久松、東城～錦備 上府：上下、府中市	◎おかえり講話 1月25日、4月17日、 10月25日 いずれも 午後7:00	◎月例勉強会(毎月21日) ◎教材勉強会(年2回) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

◎役員並びに直轄教会長会議：2月は末日、4・7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教170年12月14日終講
興明 吉岡 節代

渡邊スミ工姉

品治分教会前会長
一月六日出直されました。
享年 九十五才

◎直属ひのきしん(営繕課)

自 立教170年12月1日
至 立教170年12月20日
久松 中村 剛史

◎立教170年人づくり

立教170年1月1日〜12月31日
初 席 98名
おさづけの理拝戴 59名
修養科修了 27名
検定講習(前期) 12名
(後期) 1名

た。

享年 八十三才



昨年末、長男、次男、三男と三人の息子達が帰省した。

小さな教会のこと、問題は彼らの寝泊りする部屋と布団の確保。それ以上に底知れない胃袋を満たす食料の準備だった。"大食身に付かず、その糞、小山のごとし"とは良く言ったものだ。次男、三男に慎んで贈ってやりたい。

が、元旦祭、朝夕のおつとめはお陰で賑やかにつとめさせて頂いた。一月三日の夕方、外出先から帰会した時、彼らの姿はなかった。聞け

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「伝」、選七十四句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されましたので転載させていただきます。おめでとうございます。

秀 詠 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

道伝うよろこび有りて年の暮

▼表紙の版画 東城分教会長 横山 逸郎氏

趣味ではじめた版画。夢は個展を開くこと。

ば長男の号令のもと元旦祭の後片付けを済ませ、それぞれの地に帰って行ったとのこと。彼らの部屋を覗いて見た。豊んで積まれている布団。押し入れに入っている物。抜け出したままの恰好でそのままの物。三者三様で性格そのものだった。

ふと、壁に掛けられている数枚の写真が目に入った。数年前から毎年、正月に教会の玄関前で四人の子供達を撮った物だ。ハッピーの大きさが時の移りを物語る。この子供達が結婚し子供が出来、写

る人数がだんだん増えてと、夢は広がる。そして、必ず教会につながって欲しい——と願う。折からおちばでは「後継者講習会」が開催されている。後継者の育成は、お道の急務であり教会存亡に関わる問題である。

“自らが教えに基づく生き方を日々実行し、身近な人達に信仰の喜びを伝える事が肝要である” 輸達第二号でお諭し頂いている。先ず、私から実行しなければ、それは単なる希望だけに終わってしまうと痛感した、年の始まりだった。(あ)

訃報

箕成一夫氏

輝華分教会長
十一月二十五日出直されました